

■■■ KOBEカンタービレコンサート開催 ■■■

去る2月7日に、KFC主催のもと「KOBEカンタービレコンサート」を神戸新聞松方ホールにて開催しました。このチャリティー事業は日本財団の助成のもと、定住外国人子ども奨学金の支援を目的に実施しました。コンサートは長田で活動する「ほたる火コンサート協会」の支援のもと、有志の演奏家の方々に出演していただきました。クラシックコンサートではありませんが、耳馴染みのある演目を選んでいただいたこともあり、聴衆の方々は肩を張らずにゆったりとした気持ちでコンサートを楽しんでもらえたようです。

本コンサートの第一の目標は、定住外国人子ども奨学金を安定して運営するための基金を作ることです。来場頂いた方々のチケット代金や、賛助広告費をそのまま定住外国人子ども奨学金に寄付し、外国にルーツをもつ子どもたちの支援に充てます。

第二の目標は活動の裾野を広げることです。これまでの定住外国人子ども奨学金は、外国にルーツをもつ子どもたちの就学や進路問題に関心がある人々によって支えられてきました。しかし奨学金活動と外国にルーツを持つ子どもたちの教育課題は、広く社会のなかで考えられるべき問題です。そこで、コンサートを通じて、広く外国にルーツをもつ子どもたちの進学問題について知っていただくことを目標にしました。

当日のコンサートには400名近くの聴衆にお集まりいただき、アットホームな雰囲気のもとチャリティーコンサートを実施することができました。当日の募金も含めて、当初予想していた以上の基金を募ることが出来ました。

来場者の皆様のアンケートの感想も良く、コンサートそのものに満足していただけたようです。さらに外国にルーツを持つ子どもたちの教育問題についてはじめて知ったという反応も多く、新たに募金箱を設置してくださる方や、コンサート後にあらためて奨学金に寄付していただける方もみられました。

コンサートでは、定住外国人子ども奨学金の奨学生が壇上にあがり、奨学金活動への理解を求めるとともに社会に向けてメッセージをアピールしました。奨学生らは、このような大きな舞台にあがることはじめての経験ということもあって、一様に緊張した様子でしたが、胸を張って伝えたいことをメッセージにしてくれました。また当日には出演者で司会を務めてくださったピアニストの山川さんより、奨学生へオリジナルソングのプレゼントというサプライズもありました。

チャリティーコンサートは前例のない活動ということもあり、開催に向けて戸惑うこともありましたが、まわり道をすることで育まれた「つながり」がたくさんあります。こうした「つながり」を、社会のなかに位置づけていくことが必要となるはずです。

本コンサートは多くの方々の協力によって開催することができました。こうした機会を与えてくださった日本財団さま。そしてチケットを購入してくださった方々はもちろん、チャリティーの趣旨に賛同し賛助広告という形で協力頂いた有志の企業・団体の方々。コンサートの表舞台から裏方までノウハウを教えてくださいました「ほたる火コンサート協会」のみなさまと出演者のみなさま。この場を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。（山本 晃輔）

---

■■■ 寄 稿 ■■■

「定住外国人子ども奨学金」の広報と資金調達のためのチャリティーコンサート

2009年の話題の中心だった衆議院選挙は、政権交代の風に乗った民主党の圧勝でした。数ある

マニフェストの中でも注目を浴びたのが公立高校無償化に代表される教育格差対策でした。近年、教育格差という言葉をよく聞きますが、親の所得や教育レベルが子どもの学力や将来所得と相関があることは教育研究・現場では決して新しい発見ではありません。

東京大学大学院の刈谷剛彦教授は日本社会の階層化が子どもたちの意欲格差まで引き起こしていると指摘しています。子どもは大人が想像する以上に自分の置かれている状況、他の子どもたちとの置かれた環境の違いに敏感です。非常に不利な状況に置かれた状況に気づいた子どもたちが自然と勉強や将来への意欲を失うのは不思議なことではありません。

日本財団では2009年度事業として神戸定住外国人支援センターが行う「定住外国人子ども奨学金の広報と資金調達のためのチャリティコンサート」を支援しています。兵庫県内において朝鮮・韓国籍を除く定住外国人の子どもたちの全日制高校への進学率は50%程度に留まるそうです。そのような厳しい状況に置かれた先輩の背中を見て育つ子どもたちはどのような自らの未来を描くのでしょうか。公立高校無償化は高校へ通う3年間の費用が全く0円になるわけではなく、社会経済格差による教育そして意欲格差は大きな課題であり続けると思います。

奨学金の充実は単に高校進学を目指す子どもへの資金支援だけではなく、後へ続く子どもたちが未来へ希望を持つ為の支援でもあります。チャリティコンサートの実施によって、一人でも多くの子どもたちが高校進学の夢を叶えるとともに、そのような先輩の背中を見て育つ子どもたちが少しでも明るい未来を描けるようになることを祈っています。(日本財団公益・ボランティア支援グループ公益チーム 中川 大輔)

---

#### ◆「地域の共生を考えるワークショップ」を開催しました！

2010年2月27日（土）に、「地域の共生を考えるワークショップ」を開催しました。

天候が心配される中の開催でしたが、地域の方々をはじめ、教育現場や行政の方々、大学生まで、様々な立場の方30名にご参加頂き、長田という地域での“共生”について理解を深めるとともに、参加者の皆さん同士の交流も深めていただくことができました。

第一部のフィールドワークでは、「長田の歴史を知ろう～現在に至る変遷」をテーマに、丸五市場や六間道商店街、庄田橋、西神戸朝鮮初級学校、ケミカルシューズ会社、長田南小学校資料室等を訪れながら、長田の様子を見て・聞いて・歩いて回りました。コーディネーターを務めて頂いた、「神戸在日コリアン保護者の会」代表・金信鏞（キム シニョン）さんによる丁寧で詳しい解説に聞き入ってメモを取ったり、西神戸朝鮮初級学校に子どもを通わせておられる保護者の方やケミカル産業に従事されている方のお話を聞いて、自分なりの質問や意見を積極的に発する等、参加者の方々の真摯で積極的な姿が印象的でした。感じ方や捉え方はそれぞれあると思いますが、皆さんの「知りたい！」という気持ちが伝わってきて、まさに“共に学ぶ”場だなと感じました。

#### 西神戸朝鮮初級学校に通う子どもの

##### お母さんのお話

西神戸朝鮮初級学校には、幼稚園・小学校合わせて100人弱の子どもたちが在籍しています。授業は全て朝鮮語ですが、日本語の授業もあります。土曜日にも授業があり、外部講師による英語やパソコンの特別授業も行っています。国からの学費援助はなく、高校無償化も除外される可能性があり、（朝鮮人学校は）経済的に厳しい状況ですが、日本にいても、朝鮮の風習や文化に触れることで自信を持って生きてほしいとの願いから子どもを通わせています。在日コリアンの子どもの9割が日本の学校に通っていますが、（朝鮮人学校では）皆が顔の見える関係でいることがで

き、温かみを感じます。経済的には苦しくても、子どもたちの給食を作ったり、手作りの焼き肉ダレを販売して収益を学校運営に充てたりする等、保護者や皆が協力し合って子どもや学校を支えています。

### ケミカルシューズ会社社長のお話

顧客は、通信販売会社と百貨店問屋がそれぞれ3割ずつ、残りをアパレル関係等が占めています。ケミカル産業では近年若い経営者が増え、自社製品を自ら直接販売するといった新しい経営がなされています。賛否両論あるでしょうが、ケミカル産業の可能性を広げる良い傾向であり、自分たちもその流れを生かして、小売店への直接販売や自主販売等にも力を注ぎたいと思っています。ケミカルシューズは一から製作しているのではなく、工程の9割を中国で行い、長田の工場では最終加工のみを行っています。現在従業員は19名おり、その内訳は、日本人3名・朝鮮人7名・中国人1名・ベトナム人4名・その他となっています。以前は中国人が多かったのですが、最近ではベトナム人の割合が増えてきています。

第二部は、「共生（ともいき）教育を考える ～外国人の子どもたちを支援する地域の協働」というテーマの下、兵庫区の済麟寺にてシンポジウムを行いました。こうべ子どもにここ会事務局長・田中香織さん、神戸市立長田中学校校長・中溝茂雄さん、兵庫県立大学職員・野津隆志さん、金信鏞さんの4人の方々にパネラーを、済麟寺住職・明石和成さんにコーディネーターを務めていただき、子どもたちが前向きに育ち、地域を支える人材となるためには、学校・地域・NPOはどう協働していけばよいのか、各々の視点からお話していただきました。後半は参加者の方々の意見も交えることで、会場にいる全員が共に考え、理解を深めることができました。

### パネラーの方々のお話（抜粋）

在日外国人が本名で生活している割合（本名率）は、神戸市全体で24%にとどまっており、民族の出自を明らかにすることへの抵抗が見受けられます。民族的意識を獲得できなかった親世代が、子どもたちが民族性を大切にしながら生きていけるよう子育てするのは困難といえる中、日本人学校に通う子どもたちへの言葉や民族の学習等、アイデンティティ獲得のために、朝鮮人自身も積極的に動いていく必要があるのではないかと感じています。（金信鏞さん）

子どもたちが個性を大事にし、自信が持てるようにするためには、地域の人々にもNPOの活動や子どもたちの様子を知ってもらう必要がある。また、学校との密な情報交換もNPOには不可欠です。学校・保護者とのネットワークの構築ができれば、より円滑に子どもの共育ができるのではないのでしょうか。（田中さん）

長田中学校に在籍する外国籍の生徒数は、全校生徒350人中40人（=12%）に上ります。子どもたちの両親の多くは日本語が分からず、子どもの学校生活や進路に関する重要な場（保護者会や進路説明会等）で通訳の必要なことも多いです。兵庫県から「多文化共生サポーター」も来ていますが、教員数が十分とは決して言えず、先生方の負担は大きいです。かつて人権問題に最前線に取り組んできた先生方は引退を間近に控えるようになってきたが、若手の先生方も積極的に課題に取り組むことで育ってきており、まさに“共育”だと感じる。先生方の負担をこれ以上重くせずによりよい現状を導くためには、NPOの方々の力もお借りする等、学校と地域が互いに協働し、上手に付き合っていかなければならない。（中溝さん）

一口に“子どもたち”と言っても、ルーツや抱えている問題等は決して一様ではない。子どもたち自身も子どもたちを取り巻く問題や生活環境も、非常に多様化しているため、学校という一つの場だけではそれらをカバーしきれない。そこで、地域の皆が一緒に活動せざるを得ないような

イベントを開催する等、「“（問題に）一緒に取り組むために”、一緒に取り組む」機会をもっと増やしていけたら良いのではないか。（野津さん）

参加者の声（アンケートより）

- つながりづくりの「きっかけ」を仕掛けていくという必要性がうまく認識できた。（女性）
- 在日外国人の人々ももっとこのようなワークショップに参加し、一緒に考えることができればいいと思います。（女性）
- 学校、NPO、研究者、学生が同じ場で共育できたことがすばらしかったと感じた。（男性）  
（本田 実紀子）

---

## ■■■KFC日本語プロジェクト■■■

### ◆雛祭りの集い

3月2日に毎火曜日の午前中に学習している伊藤先生のグループのメンバー、フィリピン人2人、ベトナム人2人、ポーランド人1人と枝木さんとタイ人1人、藤井さんと中国人1人、気賀とドイツ人1人とアイルランド人1人、それに保育や事務スタッフの総勢15人が学習後、雛祭りの集いを持ちました。

雛祭りのごちそうであるちらし寿司を作りました。錦糸卵は前夜焼きましたが、具はパック入りを買って、会場で炊いたごはんに混ぜ合わせて出来上がり。雛あられとシーズン色のある和菓子も買ってきました。

正面においたテーブルの上には一対のお内裏様とお雛様を並べ、横に花びんに挿した桃の花と菜の花を飾りました。CDで流した雛祭りの曲が雰囲気盛り上げていました。

先ず伊藤先生が雛祭りの由来、流し雛から始まったことを話され、雛人形15人が雛段に並んでいる店の広告を使って、お内裏様、お雛様、三人官女、五人囃子、左大臣、右大臣、三人上戸の名称と役目を教えられました。

その後食事開始。日本料理のすしは口に合うか？とサンドイッチも用意しましたが、皆、ちらしすしを残さず食べました。保育付きの時間帯なので乳児と幼児も参加。

いつも泣きわめいているのにママのひざでご機嫌でした。最後に皆で「あかりをつけましょ、ぼんぼりに」の雛祭りの歌を合唱して1時に終わりました。

参加者は同じ時間帯に同じ場所で学んでいるので、何となく面識はありましたが、食事をしながら分かる範囲の日本語で、子どもや夫のこと、日本社会のことなどしゃべり合ったのは始めてのことでした。自分と同じような、また同じように日本語を学習しようとしている仲間がいることを、現実には知ったのは励みや刺激になったのではないかと私達、計画した者は感じたのでした。（ニュース係 気賀 倭文子）

### ◆日本語ポートフォリオ

2月24日の日本語支援者有志のお弁当ミーティングで「日本語ポートフォリオ」の話をしました。既に概要を知っている方々でしたので3月14日に兵庫ボランティアネットワークで行われる研修会に少しでも興味を持っていただけたらということで話させていただきました。私たちが日本語を支援していく上で気を付けなければならないことは自分の支援が学習者のニーズに合っているかということです。学習者は学ぶ目的もバラバラで、本人もニーズがわからないということもあります。「日本語ポートフォリオ」はそういう人たちが自分のニーズを見つけ、その勉強方法を支援者と一緒に見つけるためのツールです。学習者一人一人の目的を理解し、その目的を達成するため学習計画を立てるのに役立ちます。

日本語教室は学校のように決まった区切りはありません。貴重な時間をさいてやって来る学習者との勉強がやりっぱなしにならないよう目標を持ってやる、やったことを記録に残しておくことが大切です。今一度自分の支援を振り返ってみましょう。(高橋 博子)

#### ◆事業計画検討会と新春会

震災前から営業している評判の居酒屋「やまもとや」で賑やかに新春会が始まりました。有志の日本語プロジェクト支援者メンバーの飲み会です。9名参加の内、飲み会の名にふさわしいのは約2名(誰?)でしたが、それでも普段にはできない個人の話で楽しく盛り上がりました。

新春会の前には事務所で2010年度の日本語Pの事業企画を話し合う会を持ち、参加者は金理事長を含め10名、2009年度の実績を振り返り反省しつつ、2010年度の活動の内容を話し合いました。話し合いの中では能力試験対策の支援についての意見が活発に出了ました。ボランティアには指導するのが難しいとか、3級レベル程度までは対応できるとか、意見は様々です。試験合格を目標にする学習者は年々増えています。そのような学習者にどう対応するのか、対応しないのか、ボランティアの教室としてもっと時間をかけて考えてみないといけないかもしれません。過去2年間にKFCで行っていた「2級合格目標クラス」は次回から試験内容が変わると、短期集中型の良し悪しを一度検討してみたいので、2010年度は開かない予定です。

日常の日本語支援体制で変わることはグルーブレッスンを入門クラスを3か月ごとに開講することです。その他の日本語支援に関しては今まで通りに続けていきます。

また行事として恒例で行ってきた花見や秋祭りは、交流会と位置付けて毎回内容を考えるようにしようという意見が多数派で2010年度からその方向にしてみます。

行事は具体的には決まりませんでした。遠出してみる、国々の文化を紹介してもらって、日本文化を伝える、自分の役割がないと来ても面白くないんじゃないか、日本語が通じなくても楽しめる企画を考えたら、などの意見が出了ました。どんな行事になるのか今から形作っていかねばなりません。

そして最後にKFCの講座企画に自由に提案してもらって、新春会へ移動しました。

まだまだ寒く、解決の糸口が見えない外国人問題に押しつぶされそうになる時もありますが、支援者の方や学習者の熱意に励まされて明日への活力に結びつけています。今後もボランティア活動の基本である自主性・主体性を十二分に活かせる場所を作り、長田区の日本語支援の役割を担っていこうと気を引き締め直した一日でした。(奥 優伽子)

---

### ■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

#### ◆保護者の声から支援を考える

2月7日(土)、学習に来ている子どもたちの保護者の方に来ていただき、話し合いをする機会を設けました。このような機会を設けるのは今年で2回目ですが、各国のそれぞれの教育の違いや日本の学校教育に対して感じる事、家庭内での子どもに対して困っている事、学校のことについて疑問や不安に思う事、交友関係などについて話して頂き、スタッフや支援者も一緒に参加し、保護者とのそれぞれの思いや疑問を打ち明けてそこから今後の支援に何が必要なのかを見出していくことを目的に行いました。

この日は中国、ベトナム、ウクライナのお母さんが来て下さいました。それぞれのお母さんが共通して話したことは、①自分たちの国の学校教育は厳しいということです。ある国の学校での勉強時間は半日だったり、2部制だったりします。落第もかかっている為、みんなは必死に勉強します。ある国は日本のように運動会、音楽会、本格的な体育やクラブ活動がない為、気分転換しにくく勉強ばかりになってしまう。そうすると子どもも疲れ、かわいそう。

②日本の学校教育は時間がゆったりで勉強しながら体育や委員会、クラブ活動、遠足、校外学習等があり、勉強しながら楽しめる。③家庭内や学校のことで困っていることについては、どのお母さんも言葉の壁でどうしても子どものサポートをしてあげられないという声があがりました。学校の行事で保護者が顔を出さないといけない時も言葉が通じないため、先生とのやりとりが困難で、家庭で子どもが宿題の分からない問題を聞いてきても説明することができません。

現状ではこういった課題が出てきています。これら以外にも一つ気づいたことは、子どもは日に日に日本語を覚えていく一方、母国語が薄れていってしまい、親と子どものコミュニケーションが図りにくくなっているという問題がありました。そして来日して間もない子どもにとっては日本の環境にまだ慣れず、日本語もそんなに分からないので精神的な影響が出て心配という思いもありました。

日常の中で言語関連に満たされている日本人は外国人の中にはこんなに問題を抱えている人たちがいることに気付いていません。彼らを理解してあげることが私たちに必要です。このような問題点や保護者の抱えている思いを知ることがあり、スタッフ、支援者の私たちにとって新しい発見の一つになっていることだと思えます。保護者や子どもにとって今は何が一番必要としているのか。子どもの心のサポートはどうしてあげたらいいのかなど考えさせられました。KFC⇔家庭⇔学校⇔教育委員会の4つの連携がしっかりとれないとどこかで欠けてしまう部分があると思えます。

私も同じベトナム人です。私の少しの夢ですがどうかこの思いが全体に行き届けられ、みんなが問題に関心を持ち、みんなが共に住みやすい社会が築ける日があれば嬉しいです。（トラン ティ エン アン）

#### ◆支援者交流会

2月6日（土）の研修会が終わったあと、日頃から学習支援に参加していただいている支援者の方々とスタッフを含めて7名で支援の中での課題について話し合いました。

この交流会の目的は、現在の学習支援の課題を支援者の方たちと話し合い、情報や意見交換することによって、今後の支援をよりよいものにするということです。

実際に支援者の方々には、支援の中で感じる課題について書き出してもらいました。たくさんのご意見を頂いたのですが、交流会で頂いたご意見の一部をご紹介しますと思います。

まず学習については、やはり漢字の学習について子どもたちの中には学年が上がっても過去の学年の漢字をきちんと覚えていない子どもも多く、そのような子どもたちにどのように漢字を覚えさせるのかということでした。また子どもたちを集中させて勉強させることが難しいという声もたくさんありました。

さらに教室運営上の課題や問題点もたくさんご指摘を頂きました。子どもたちの学習時間が一定ではないため、なかなか学習に集中しにくい。またスタッフと支援者の間で子どもの情報を共有できていないことがあり、支援者を混乱させているということもわかりました。

今後KFCの学習支援の場が、子どもにとっても支援者にとってもよりよい場となっていくよう、今回のご意見を参考にスタッフの一人としてより一層努力していきたいと思えます。当初1時間という予定にもかかわらず2時間もの長い時間ご参加いただきました支援者のみなさま、大変ありがとうございました！今後とも気づいた点や改善点があれば、ご意見くださいますようお願いいたします。（矢根 寛子）

## ◆ハナの会 新年会を終えて・・・

2010年1月30日土曜日、恒例の新年会が行われました。

お天気も晴ればれ、たくさんのハルモニ達とお客様（家族様）にいらして戴きました。

今年はKEY（在日コリアン青年連合）のお兄さん、お姉さんに新年会の進行をして頂きました。理事長の挨拶により乾杯でスタートしました。料理はスタッフの朴さんを先頭に前日より仕込みをし、当日の朝早くより韓国料理等々を作りました。ビール、ジュース、お酒（日本酒）・・・会食中もわいわい（和気あいあい）と盛り上がりました。KEYのお兄さん、お姉さんによる『じゃんけんゲーム』でハルモニたちが負けん気を出し、楽しそうにしてもらっていました。ソルチャング演奏もあり、我慢できずに歌に踊りにと、最高潮へ。次々とマイクが回っていき、パワー全開へ！大丈夫かなと思うほどに・・・ちょっと元気すぎ？

終りに近づくと、「延長！まだまだ！」と、名残惜しそうに大声で言われていました。ありがたいのですが・・・。

元気なハルモニたちがずっと歌って踊ると、いつまでもいられるように願いつつも終わりました。

今年も頑張っていけるように、皆さま方と乗り切っていきたいと思いました。

『お疲れ様でした』（吉田 信子）

## ◆ハナの会、大改造??

といっても、大がかりなリフォームをした訳ではありません。年末の大掃除を兼ねて、思いきって模様替えをしたのです。

まずは、普段から気にはなっているもなかなかできなかった棚の備品の整理。それには、もっと機能的な棚が必要・・・置き場所も考慮して、薄型で可動式の棚板のついたものを選びました。それから、2台はあるものの、1台は一度座るとなかなか立ち上がりにくいソファ。年々足腰の弱くなるハルモニたちには、大変使いにくいものでした。午後の時間をゆっくりと過ごしたいハルモニたちには数も足りないので、もう一台増やしたいという考えもありました。そこで、スタッフが大型家具店に下見をしに行き、理事長に理解をいただいて、立派なソファを3台購入しました。食後のコーヒーの後の時間を、ゆっくりと楽に過ごせるようになりました。また、座るのも立ち上がるのも今までよりも楽になり、多くのハルモニ達に喜んでいただいております。  
(朱良枝)

---

## ■■■ 今後の予定 ■■■

### ■ 研修会

4月10日（土）13:30～15:00

於 多文化子ども共育センター(moi)

### ■ ハナの会お花見

4月7日（水）、9日（金）

於 妙法寺川公園（予定）